

## ウォッチング多摩 代表 神津幸夫

パルテノン多摩「多摩市立複合文化施設等大規模修繕工事」については、市民は何時・誰が決めたのか知らぬ間に、突然80億円の修繕費が現れ驚いています。

昨年来、行政・議会はこの計画を進め「基本計画・基本設計」「発注者技術支援(CM)」「特定天井耐震改修工事」を2億円超える予算でその作業が進められています。

議会は本年3議会で、この予算に対し

- ① 当該予算の上限を強く意識し可能な限り削減の努力をすること。
- ② この予算は基本計画・設計費用であるため拙速に事業を進めず多摩センター地域全体の活性化につなげ市民への説明責任を果たすこと。
- ③ 利用者のみならず市民及び議会との情報共有及び意見の反映に努めること。

と付帯決議をしています。当該予算の上限とは何を指すのか全く曖昧で、すべて努力せよと云っているだけで、結果として「努力しました」更には「予算の上限も意識しました」で終わってしまうものになりかねない。

行政は、基本計画策定(市民)委員会でも市民の意見を十分に汲み取るとの建前で5人の公募市民委員と3人の有識者で基本計画が進め、8月末までに4回開催されました。この委員会を傍聴する限りでは、基本計画策定とは言っても既に基本路線は敷かれており、利用者の改善要望を聞く会にしか見えず、第4回の委員会で初めて80億円の予算が業者から提示されました。

予算提示後、2人の委員の発言として一人の女性の方は「私の生活感からするととても想像できない金額でこの予算をどうかと言われても何とも言えない」もう一人の女性の方は、この場(タイミング)で言うことでないかもしれないという前置きで「このパルテノンで何をしたいのか、何がやれるのかといった市民が話し合うことが要るのでは」と。

この状況を皆さんはどう受け止めるでしょうか。まさにこの方が言われることで始まることこそが基本計画でなければならないはずです。

公共施設再配置から始まった行政のハード先行の場所ありき建物ありきの政策がこのパルテノン大改修に露呈されています。

市長が掲げる「市民がデザインするまち多摩」の理念は何処に。かような現下であれば「行政がデザインするまち」に変更し、その自信ある政策案を市民に説得納得してもらい、とする方が受け入れやすくすっきりする。

その上で、これから市長の説明会、シンポジウム、アンケート、パブコメなどを行うとするならその道筋は頷ける。

言っていることと行われていることの優先度・道順が違っているため、このまちのリーダーの構想力と市民を動かす力不足まで疑いたくなる。

ニュータウン誕生から右肩上がりの時代背景をしたこれまでの30年と、人口減・歳入減・扶助費増等などの右肩下がりのこれからの30年を展望する構想者はこれまでの経験でしか考えない愚か者ではなく、過去の歴史から学ぶ賢者でなければならない。

今からでも遅くはない。今期中（3月期末）私たちが選んだ議員の挙手数で最終決定となる。そのために議会も3月の予算議会であの時点では止むを得ず抽象度の高い付帯決議に留めたのだから市民の声を反映したパルテノン大規模修繕計画として貰いたい。

その一助になればこのサイトを立ち上げましたので一人でも多くのかたがたのご協力をお願いします。

ここまで来てしまっている計画をもう一度原点に立ち返って市民を味方に市民目線で議決されている「付帯決議」を実質化する議会からの政策提案を練り上げ行政案と対峙できる政策論争を展開の上議決としてもらいたい。

議決は我々市民の代表である議員26人の挙手数で決定するため、ウォッチング多摩の会としては議員の皆さま一人ひとりにアンケートの回答とそのコメントをお願いし我々市民の意思に応じてもらえる議員は誰か見極め今後の頼りにしたい。

もちろん当サイトは一人でも多くの市民の声を拾えるよう最大限の努力をしリアルタイムにその情報を公開してゆく。